

「アンデス物語&ナチュラルダイ」の展開

ーナチュラル志向の潮流に乗せて

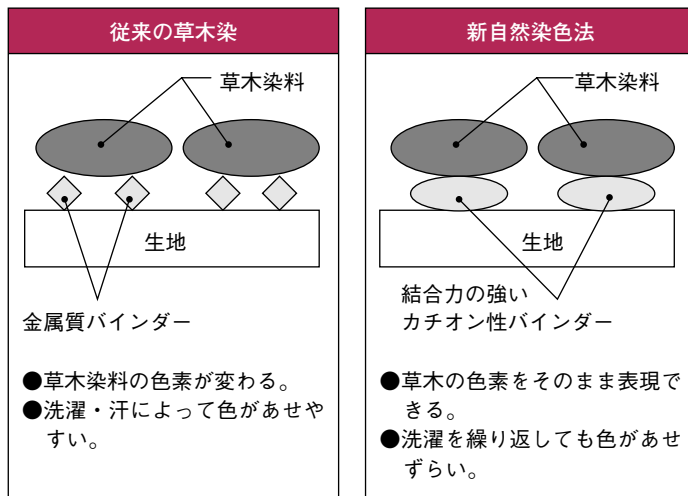
かな ざし のり あき
金指 礼昭
 蝶理MODA株式会社
 社長

当社は、蝶理のマーケティング部とアパレル部門の企画部署として分社していた蝶理アパレルテクノを事業統合して、2004年10月に発足しました。以来1年半が経過しましたが、企画・情報関連事業、オリジナル商材開発事業、人材紹介事業の3事業をメインコアとして位置付け、蝶理のアパレル事業をはじめ、各繊維部門の販売拡大に寄与する実践的な企画・開発の拠点として精力的に活動しています。

本欄では、その中から蝶理オリジナル商材開発事業の1つとして昨年3月、開発に着手し、この春夏物衣料で数々の著名ブランドから販売が開始された「アンデス物語&ナチュラルダイ」の展開について紹介いたします。



図1 従来の草木染めとの違い





2005年6月 蝶理繊維総合商談会で

「ナチュラルダイ（新自然染色法）」との出会い

約5000年の歴史を持つ従来の草木染めは、工芸的ハンドクラフトの域を出ないものが大半でした。そのため、個性的ではあっても染色堅牢性に乏しいのが工業化への障害となっていました。シオンテック(本社東京都、菱川恵佑社長)は、20数年の歳月をかけて研究を重ね「ナチュラルダイ手法」という天然色素による新しい染色技術を完成し、見事にこの壁を打破しました。

私と担当スタッフは、ある大手アパレルの知人に紹介を受け、当社の商材開発理念である「人の健康と地球環境に優しい」に合致し、ナチュラル志向の市場ニーズに適合すると直感しました。それからは、間髪を入れずに高級綿を使った各種素材に試験染加工を依頼し、同社の技術を活用させていただくことで当社との協働開発の途に就いたわけです。開発には、紆余曲折が待っていましたが、オリジナル商材に向かって前進できたのは、シオンテックの旺盛な研究心の賜物でした。

「ナチュラルダイ」の特長

独自に開発した微細で結合力の強いカチオン

性バインダー（図1参照）で天然色素を強固に、高効率で繊維に染着させることにより、次の特長が生まれました。

- ① 従来の金属媒染の草木染めに比べ、格段に耐光堅牢度（JIS L0842）、洗濯堅牢度（JIS L0844）、汗堅牢度（JIS L0848）が改善され、素材と色素により多少の差は出ますが、大半が公的試験機関の上記テストで3級以上をキープしています。
- ② 天然染料を97%、化学染料（カチオン性バインダー）を3%使用することにより、色素強度が高まり、また均一な工業染色が可能になりました。
- ③ 高効率の吸着法のため、排出色素は微量で無害な透明感のある廃液となり、人の健康と環境汚染に配慮しています。

オリジナル商材化への組み立て

「ナチュラルダイ」をより優位性の高いオリジナル商材に育てるため次の方策をとりました。

- ① 「アンデス物語®」（ペルー・ピマ超長綿）コンパクトスピン糸の採用

当社はナチュラルダイの綿素材として、蝶理がペルーのテキスタイル・ピウラ社から輸入し、「アンデス物語」の商標で、国内に独占販売し

ているピマ綿のコンパクトスピン糸使用に限定し、差別化を図ることにしました。アンデス山麓のピウラ溪谷で生まれた最高級超長綿の素材は、ソフトな風合いとシルキーな光沢性に富み、新自然染色法の鮮やかで深みのある染色技術と相まって、見事なでき映えとなりました。

② 南米原産の植物色素で染め上げ

シオンテックの尽力により、当社が提案した春夏物トレンドカラーをナチュラルダイの手法を使ってワタ、クワ、ベニノキ、パラナ松、クロコショウ等々、南米にルーツを持つ植物色素で表現することができました。また、同社には量産加工に対応可能な南米の色素収集ルートと国内における天然染料調合工場も整備していただきました。

プレゼンテーション開始

2005年6月開催の春夏物「蝶理繊維総合商談会」提案コーナーに「アンデス物語&ナチュラルダイ」として出展し、販売促進をスタートしました。同商談会では、提案カラー23色の植物色素を溶液に入れたシャイニング・グラスと、ニット、ジャージ、布帛^{ふはく}素材での独自デザインの製品展示で演出しました。地球環境と人の健

康に配慮するナチュラル志向の潮流もあり、2日間で来場いただいた約1,200名の方の多数から好評をいただく結果となりました。

蝶理営業部と2人3脚で販売展開

蝶理の営業部門と当社素材開発グループは、商談会後の販促フォローと販売活動を、千駄ヶ谷の当社ショー・ルームを有効活用して、積極的に実施しました。初年度の春夏物から、婦人大手アパレルの著名ブランドを中心に約12万枚の受注を得るという上々の滑り出しとなりました。

ウール素材で秋冬物も企画提案

2005年12月開催の秋冬物「総合商談会」には、「Natural Dye & Premium Wool」で出展し、通年素材としてデビューさせました。欧州にゆかりの深い天然色素を駆使して染め上げたナチュラルダイ・ウール素材は、エコロジーウールやタスマニアブレンドウールの良質感もあり、鮮やかな色相とソフトな手触りで評判となりました。今春夏のアンデス綿に続き、秋冬のウール物で商品企画進行いただいている有力ブランドもいくつかあり、今後ますますの拡大が期待されます。

JF
TC



2005年12月 繊維総合商談会で